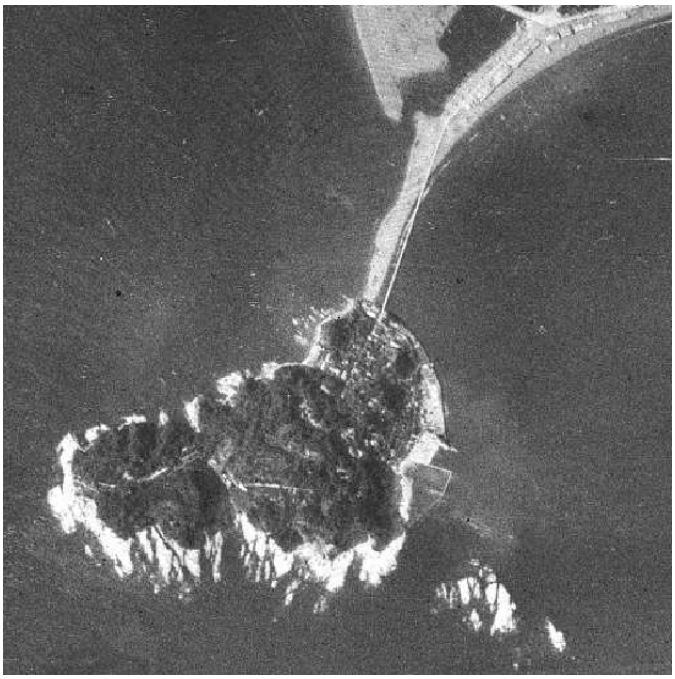
「日々の理科」（第 2005 号） 2020,-1,-5

「江の島紀行（６）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka



（４枚とも国土地理院提供）

過去の航空写真を見ると、江の島の変遷がよくわかる。1947 年の写真では、自然の作った島と、小さな漁港があるだけだ。細い橋で片瀬海岸とつながっている。片瀬側の河口から伸びる「砂嘴」も、現在よりも西寄りにあった。

1956 年の写真では、江の島本体の東側に、埋め立て工事が始まっている。面積は一気に 1.5 倍に拡大している。現在の江の島は、「江の島本体」（本来の自然が造った島）の東側に、ヨットパーバーや防波堤などの人工的な埋め立て地がくっついた、「山と平地」の混在した陸繋島であることがよくわかる。

1977 年の写真では、ヨットハーバーがきれい整備され、砂嘴もやや東側に寄っているのもわかる。1964 年の東京オリンピックでヨット競技が行われ、当時の「聖火台」も残っている。江の島は 2020 年の東京オリンピックでも競技会場になる。

最も新しい航空写真では、弁天橋（人道橋）に加えて、江の島大橋（自動車専用道）も完成している。写真はちょうど満潮時で、江の島は文字通り「島」になっているが、右側の波の位置を見ると、砂嘴の位置が更に東よりに移動していることがわかる。